

月刊しばうら

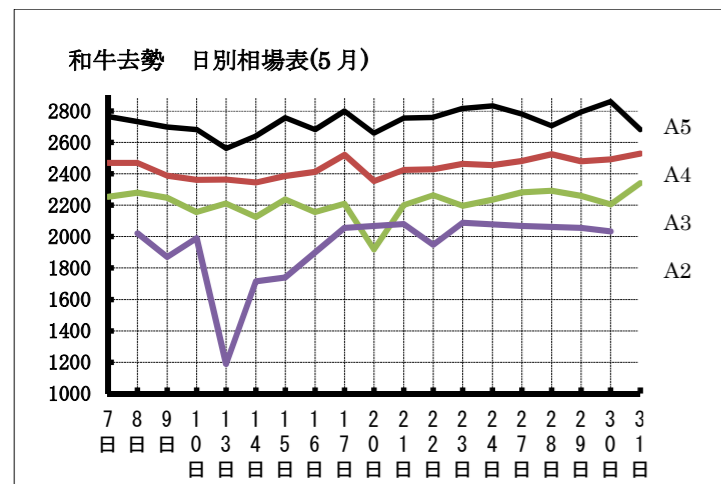
2019年6月号

大動物事業部

＜5月の相場動向＞

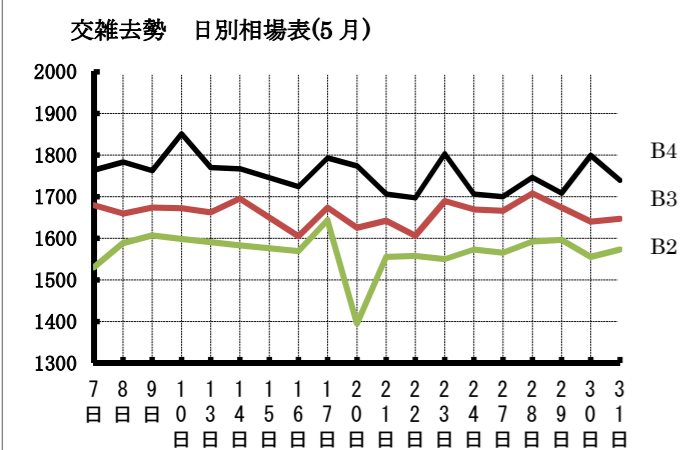
和牛去勢 A5 が前月比 32 円安の 2,733 円（前年同月比 36 円安）、A4 が同 1 円安の 2,432 円（同 5 円高）、A3 が同 42 円安の 2,220 円（同 73 円高）、A2 が同 90 円安の 1,942 円（同 15 円安）となり、交雑牛去勢は B4 が 2 円安の 1,762 円（同 66 円高）、B3 が同 25 円高の 1,667 円（同 141 円高）、B2 が同 41 円高の 1,572 円（同 209 円高）、乳牛去勢は B2 で 33 円安の 1,029 円（同 22 円安）となった。連休明けにも関わらず和牛は補充買いの活気を見せることなく弱含みの相場となった。

一方、交雑牛は依然として高値基調を維持し、特に 2 等級はしっかりと相場となっている。



和牛去勢（月平均）

A5	2,733 円	(前年同月比 98.7%)	(前月比 98.8%)
A4	2,432 円	(〃 100.2%)	(〃 100.0%)
A3	2,220 円	(〃 103.4%)	(〃 98.1%)
A2	1,942 円	(〃 99.2%)	(〃 95.6%)



交雑去勢（月平均）

B4	1,762 円	(前年同月比 104.3%)	(前月比 99.9%)
B3	1,667 円	(〃 108.7%)	(〃 101.5%)
B2	1,572 円	(〃 118.8%)	(〃 102.7%)
乳牛去勢（月平均）			
B3	1,213 円		

B2 1,029 円（前年同月比 97.9%）（前月比 96.9%）

＜6月の牛肉輸入量予測＞

財務が発表した輸入通関実績によると、4月の輸入量は前年比 8.2%増の 6 万 7,268 t で、うちチルドは 2.9%増の 2 万 5,860 t、フローズンは 11.9%増の 4 万 1,408 t だった。チルドは新協定国の関税が 4 月にさらに削減されたこと、最大 10 連休の大型連休に向けた手当てにより増加となり、フローズンでは年度 SG 回避の動きから未通関分が一挙に通関に回り、SG 明けで 3 割増加した前年をさらに上回る結果となった。また、チルド、フローズンともに NZ、カナダ、メキシコが大きく増加している。農畜産業振興機構の予測による 6 月の牛肉輸入数量は、前年比 5.7%増の 5 万 t。チルドは、0.2%減の 2 万 3,400t、フローズンは、11.6%増の 2 万 6,600 t でフローズンは豪州の出船遅れの回復が見込まれることなどから、前年同月をかなり大きく上回ると予測している。

輸入牛肉通関量	4月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	12,385	12,052	102.8%
	米国	11,479	11,905	96.4%
	その他	1,996	1,182	168.9%
	合計	25,860	25,139	102.9%
フローズン	豪州	19,341	17,510	110.5%
	米国	15,480	15,419	100.4%
	その他	6,587	4,073	161.7%
	合計	41,408	37,002	111.9%

単位：t

出典：食肉速報

＜6月の全国出荷頭数予測＞

家畜改良センターの個体識別全国データベースによる現在の全国飼養頭数をもとに、この夏場（6～9月）にかけての肉牛出荷見通し予測によると、和牛は出荷適齢期を迎える 24～27 カ月齢の飼養頭数は 15.2 万頭で、前年同月比 1.5%増。交雑種は 21～24 カ月齢の飼養頭数は 6.5 万頭、同比 7.9%減の 2 年連続で昨対割れとなり、この月齢範囲では 3 年ぶりに 7 万頭を割っている。ホル雄の増加の兆しみえず、和牛はわずかながらも増加が見込まれるものの、交雑種および乳用種の減少が見込まれることから、前年同期比約 2%減としている。

農畜産業振興機構による 6 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 2.5%減の 8 万 1,100 頭と予測。品種別にみると和牛は 1.6%増の 3 万 5,300 頭、交雑種は 12.1%減の 1 万 7,800 頭、乳用種は 0.6%減の 2 万 6,700 頭と予測している。

東京食肉市場の 6 月のと畜頭数は、6,600 頭を予定しています。

＜6月の牛枝肉相場見通し＞

入梅時期に向かって需要の落ち込む時期であり、和牛は出荷頭数も増加傾向にあることから、やや弱含みの相場展開か。交雑牛は需給予測でも顕著な減少が見込まれており、引き続き堅調な相場で底堅い展開が今後も続くとも予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,700～2,800	B4	1,700～1,750
A4	2,350～2,450	B3	1,650～1,700
A3	2,150～2,250	B2	1,550～1,600
A2	1,950～2,050		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,050		

小動物事業部

4 月の全国と畜頭数は、前年同月比 2.9%増の 140 万 4,873 頭と前年より増加した。また、4 月の豚肉通関数量は、9 万 8,314t（前年同月比 22.5%増）と前年同月を大幅に上回り、前月比でも約 3 万 t と大きく増加した。内訳はチルドが 3 万 6,153 t（6.9%増）、フローズンは 6 万 2,161t（33.9%増）と 3 割を超える増加となった。新年度となり TPP11 や日 EU・EPA 対象国の輸入関税が引き下げられることで未通玉を含め大量輸入量となった。

2018-2019年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
4	75,496	80,144	18,753	159,213	77,128	81,431
5	76,152	80,227	19,021	161,265	75,842	78,175
6	69,573	76,677	17,434	161,087	71,104	76,855
7	68,709	78,084	17,332	158,705	68,762	80,466
8	70,135	79,654	18,182	157,848	69,223	80,511
9	67,675	68,972	18,048	149,511	67,772	77,309
10	82,053	83,979	18,178	147,729	81,863	85,761
11	82,254	83,346	18,435	144,982	81,925	86,093
12	79,338	73,146	19,394	140,967	78,307	77,161
1	79,477	61,703	19,643	144,246	79,203	58,424
2	75,590	81,638	19,818	147,097	72,334	78,787
3	74,058	68,303	21,221	145,268	72,588	70,432
4	77,788	98,235	22,544	167,222	76,406	76,281
比	103%	123%	120%	105%	99%	94%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：トン、%

4月豚肉通関実績						単位：トン、%		
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比			
アメリカ	17,388	104.5	デンマーク	17,944	180.7			
カナダ	17,800	108.5	スペイン	13,013	134.7			
メキシコ	961	123.8	メキシコ	8,067	124.9			
			アメリカ	3,966	83.9			
			カナダ	3,559	110.2			
合計	36,153	106.9		34,518	133.9			

＜5月の豚取引の推移＞

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
7日	73,100	583	565	1,141
8日	68,200	607	554	738
9日	68,300	608	556	915
10日	67,700	608	555	983
13日	65,200	596	553	670
14日	64,100	605	555	792
平均	67,766/日			873/日

大型連休が明け 500 円台後半から 600 円の高値で推移しているが、補充買いも一段落し、全体的に荷動きは鈍化してきている。特にロイン系の引き合いが弱い状況となっている。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
15日	64,200	599	560	725
16日	66,300	620	584	714
17日	62,800	592	575	884
20日	61,900	584	587	652
21日	64,500	593	567	791
22日	61,500	623	580	718
平均	63,533/日			742/日

出荷頭数は減少傾向にあり、全体的に締まった需給となっている。豚肉の末端需要はロース、カタロース、バラの中部位を中心に伸び悩んでおり、価格次第でスソ物が動く展開となっている。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	64,700	614	571	721
24日	61,800	599	569	889
27日	58,700	622	597	681
28日	63,200	641	594	680
29日	62,800	625	597	649
30日	64,400	605	585	719
31日	59,700	615	597	763
平均	62,185/日			729/日

全国的に出荷頭数は減少傾向にあり、枝肉相場は 600 円絡みの高値相場展開となっている。一方、需要の端境期の中、荷動きは鈍い状況となっている。

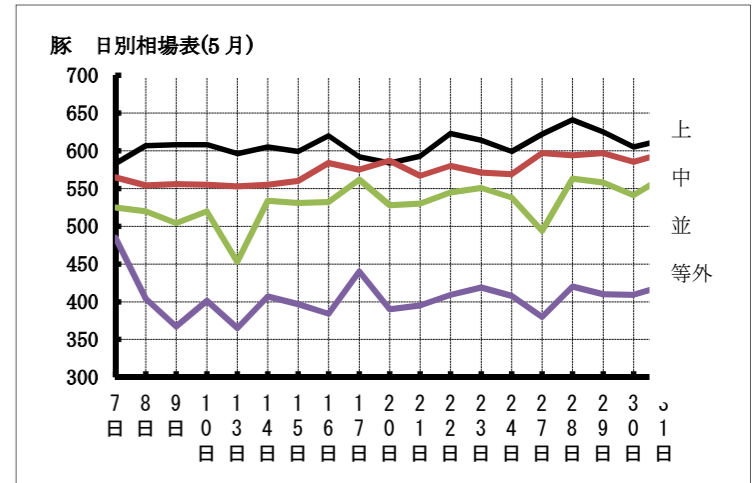
＜6月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による 6 月の全国と畜頭数予測では前年同月並みの 127 万 7,000 頭で年比 1%減（過去 5 年の平均比）と予測している。当市場の 6 月集荷予定頭数は 1 万 5,800 頭、1 日あたりでは約 790 頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると 6 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 5,400t（同 98.3%）、内訳はチルドが 3 万 2,300 トン（同 101.9%）、フローズンは 4 万 3,100t（同 95.8%）と予測。

6 月は特にイベントもないえに梅雨入りで豚肉の消費自体も落ち込む時期だけに需要は伸び悩む展開が予想される。しかし、いまだ豚コレラの発生が収束しておらず、関東では PED の影響などもあり、出荷頭数は減少となることが予想されることから、相場へ与える影響もありそうだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は 580 円前後、中物平均価格 560 円前後の展開と予測する。



出荷者の皆様へ

PED ははじめとする様々な病気を予防するため、防疫体制を強化しております。生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127
URL http://www.tmmc.co.jp/